

運輸安全マネジメント評価／診断を開始しました

JQAは、運輸業者を対象にした国土交通省の運輸安全マネジメント制度の関連業務を、本年より開始しました。この業務では、国土交通省の運輸安全マネジメント制度に基づく「運輸安全マネジメント評価」と、JQAが独自に開発した「運輸安全マネジメント診断」の2つのサービスを提供しています。

運輸安全マネジメント制度とは、ヒューマンエラーによる事故の多発を受けて国土交通省によって創設された制度で、運輸事業者(右表参照)は、定期的に国土交通省または、認定を受けた民間機関が実施する評価を受けることが義務づけられています。

JQAは国土交通省主任運輸安全調査官としての業務経験を持つ2名の評価員を中心に「運輸安全マネジメント診断」を開発しました。右表に「国土交通省運輸安全マネジメント評価」と国土交通省より認定を受けた「JQA運輸安全マネジメント評価」の比較を示します。

JQA認定評価員



江波戸啓之

(技術開発部 主幹
元国土交通省主任運輸安全調査官)



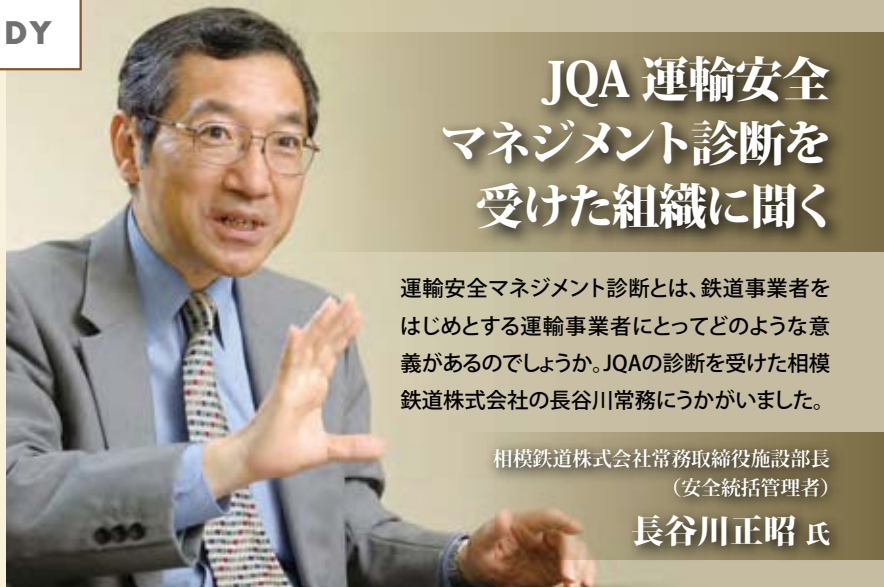
岡本満喜子

(技術開発部 参与
元国土交通省主任運輸安全調査官)

■ 運輸安全マネジメント評価サービスに関する比較表

	国土交通省 運輸安全マネジメント評価	JQA 運輸安全マネジメント評価	JQA 運輸安全マネジメント診断
評価基準等	『運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン』および関連文書		
対象事業者	安全管理規程の作成・届出等義務付け対象事業者(約5,100事業者)	自動車(約100事業者)	自動車、鉄道、航空、海事等あらゆる運輸事業者(約27万事業者)
サービス内容	運輸安全一括法にて定められた対象事業者に対し、定期的に安全管理体制の運用状況の確認を行います。	JQAは、国土交通省から「自動車運送事業者における運輸安全マネジメント評価を行う民間機関」として認定を受け、JQAの評価を受けた事業者は、その評価結果が国土交通省に報告され、国土交通省の評価を受けた事業者と同等に取り扱われます。	JQAが独自に開発したサービスで、自動車だけでなく鉄道、航空、海事等、運輸事業者の全モードを対象に、運輸安全マネジメントの取り組みの進捗状況を、第三者の視点から客観的に確認します。
目的と効果	経営トップから現場まで一丸となって、PDCAサイクルの考え方を取り入れた形で安全管理体制を構築し、その継続的な取り組みを行うことによって、安全風土の構築、安全意識の浸透が図れます。	評価の内容によっては保安監査の周期が延長されるメリットもあり、また客観的に自社の安全管理体制の強み・弱みを把握することで、効果的かつ具体的な改善目標の設定も可能になります。	組織の安全管理体制の構築や、内部監査の代行、国土交通省の評価の事前準備等に活用できます。
評価体制	評価員3名1チームで実施。運輸安全調査官。	評価員1～3名1チームで実施。元国土交通省主任運輸安全調査官を含むJQA認定評価員。	原則1名1チームで実施。元国土交通省主任運輸安全調査官を含むJQA認定評価員。
評価日数	事業者の規模に応じて1～2日	事業者の規模に応じて1～2日	事業者の規模および希望に応じて1日以上
成果物	報告書のみ(登録証、適合証明書等の発行なし)		

CASE STUDY



JQA 運輸安全マネジメント診断を受けた組織に聞く

運輸安全マネジメント診断とは、鉄道事業者をはじめとする運輸事業者にとってどのような意義があるのでしょうか。JQAの診断を受けた相模鉄道株式会社の長谷川常務にうかがいました。

相模鉄道株式会社常務取締役施設部長
(安全統括管理者)

長谷川正昭 氏

診断を受けた狙いは、どこにあるのですか。

長谷川氏 当社は、国土交通省の運輸安全マネジメント評価を過去3回にわ

たって受けてきました。これに先立つ内部監査として、従来は、安全管理体制が適切に機能しているか否かを、社内の安全監査でチェックしてきました。ところが、こうした取り組みを重ねる

中で感じたのは、同じ組織内で安全監査を実施するのは、どうしても限界があるということです。

2009年6月、保線区係員が列車と接触するという事故が起きました。安全対策を講じる中でわかってきたのは、社内で常識だと思っていたことが、実は時代に合っていない部分があるという点です。

国土交通省の運輸安全マネジメント評価では、外部の目が加わりますが、残念ながら年1回だけです。それでいいのかと考えたとき、運輸安全マネジメント診断をJQAで実施していることを知りました。同じような業務を外部で実施しているなら、その力を借りよう、と診断を受けることを決めました。

診断ではどのような指摘が出てどのように役立ちましたか。

長谷川氏 診断を受けたのが、たまたま、国土交通省の運輸安全マネジメント評価を受ける直前の時期でした。診断を通じて指摘を受けた問題点を改めるまでの時間はありませんでした。評価に向けた心の準備はできたように思います。

診断の中では、かなり突っ込んだ質問を受けることもありましたが、JQAの診断チームとのやり取りがあったので、国土交通省の評価には自信をもって臨むことができました。予行演習になったとも言えます。

振り返って考えると、診断を受ける一

番の意義は何より、専門性をもった第三者の指摘によって気付きを与えられるという点にあると思います。

私たちは「運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン」に基づいて監査の想定問答を作りますが、診断の時には想定外の質問を受けることもありました。この中には想定段階では気付かない点も含まれています。言われてはじめて、「なるほど」と気付かされる点です。ただ、時間の関係ですぐに改める余裕はなかったので、そこで気付かされた点は、翌年度の安全方針や安全重点施策に盛り込むことにしました。

具体的には、安全に関する情報の一

元管理を挙げることができます。当社では、放置しておく事故を招きかねない「事故の芽」情報、他社の事故情報、お客さまの声等、それぞれを別々に管理していました。ところが、診断の中では「これらの一元化について検討の余地がある」とのコメントをいただきました。そこでいま、安全という切り口で一元化を図る仕組みを検討している段階です。

診断を通じて印象に残ったことはありますか。

長谷川氏 09年6月に起きた事故は、鉄道会社としてあってはならないものです。それだけに事態を重く受け止めた上で、問題点を洗い出して安全管理

■ 運輸安全マネジメント診断 プログラム実施例

日時		診断対象部門／診断項目
1日目	午前	事前打ち合わせ
		初回会議
		企業内概略見学
		〈安全管理体制全般／施設管理〉 【安全統括管理者（兼施設部長）】
	昼 食	
	午後	〈安全管理体制の基本設計（確立～導入・運用～監視・見直し～維持・改善）〉 【安全対策部（事務局）】
		〈相直計画他〉 【プロジェクト推進部】
		診断まとめ
		中間会議

日時		診断対象部門／診断項目
2日目	午前	事前打ち合わせ
		〈要員管理、内部コミュニケーション〉 【経営管理部】
		〈要員教育、指令、運行〉 【運輸車両部】
	昼 食	
	午後	〈営業〉 【営業部】
		診断まとめ
		報告書作成
		企業代表者報告会議
		最終会議

体制を見直しました。

こうした取り組みに対して、診断の中では「起きたことを重く受け止めて必要な対策を採ったのは、いいことです」と、評価を受けました。これは私たちにとって、大きな励みになりました。

また、係員が線路を歩いている時、列車が近づくと音や光で列車の接近を知らせる装置があります。ある現場の安全衛生会議で、「ここは危ないから、その装置があったほうがいい」という話が持ち上がりました。その話が本社に上がって、結果として、予算が付いて設置が決まりました。診断の中では「現場の声が予算付けにまで結びついたプロセスはすばらしいですね」と、評価いただきました。

JQAの診断チームはどうでしたか。

長谷川氏 今回の担当者は、国土交通省主任運輸安全調査官の経験者だけあって、評価の手法のみならず、我々の組織についてもよくご存知でした。また、「ここまで事前に資料を読み込んでくる」とは、というのが率直な感想です。組織、会議体の名称や内容を十分に把握した上で、インタビューに臨んできます。それだけに、インタビューはこちらの組織などについて説明する必要がありま

せんでした。本質的な部分にまできちんと踏み込んだ、内容の濃い診断をしてもらいました。

診断後に受けた運輸安全マネジメント評価の場合は、国土交通省から何かコメントがありましたか。

長谷川氏 運輸安全マネジメント評価の内部監査に関するインタビューでは、外部機関を活用した内部監査、つまりJQAの運輸安全マネジメント診断の有用性に関して、「客観性の高い監査が実施できています」と評価を受けました。

最後に、運輸安全マネジメント評価との兼ね合いはどうお考えですか。

長谷川氏 同じ第三者とは言っても、監督官庁の目とJQAのようなマネジメントシステムの評価を専門に手がける機関の目では、異なる部分もあります。

様々な角度からの指摘を改善していくことで、安全管理体制のレベルは確実に上がると考えています。

それに、国土交通省の運輸安全マネジメント評価を前提とすると、予行演習の意味合いを持たせることもできると思います。初めてインタビューを受ける担当者にとっては、評価前に診断を受けておけば安心です。時間の余裕さえあれば、評価前に問題指摘を受けた点を改めておくことができます。運輸安全マネジメント評価と診断をセットと考えるのもいいと思います。



会社概要

相模鉄道株式会社

相鉄グループの鉄道事業会社。沿線の住宅地と横浜市中心部を結ぶ典型的な都市型鉄道。

創 立：昭和39年11月24日

本 社：横浜市西区

総沿線キロ数：38.1km（貨物線（厚木線）含む）

輸 送 人 員：約2億3,088万人（平成20年度）

社 員 数：1,118人

<http://www.sotetsu.co.jp/>